令和3年度　大阪偕星学園高等学校　評価報告書

1　めざす学校像

人(生徒)は皆、星であり、生徒一人ひとりの個性を大切にし、かけがえのない存在としてその可能性を伸ばし、鍛えていく。生きる力を養う教育、個性を大切にする教育、共生教育。

- 常に教務の研鑽に努め、生徒一人ひとりの学力向上を図る。
- 生徒の個性と人権を尊重し、全人的な教育を実践する。
- 学園内の整備と美化に努め、より充実した教育環境を提供する。
- 進学・就職など、卒業後の生徒の進路を全力でバックアップする。
- 保護者の方々の意見を尊重し、学園運営に反映させる。

2　学校教育自己診断における結果と分析［　令和3年11月　実施分　］

実施対象は全学年生徒、保護者とした。回答は無記名、質問はアンケートと自由記述で実施した。保護者の回答率は94%、生徒の回答率は99%と非常に高かった。保護者については、肯定的と捉えることができるAとBの和がほとんどの項目で7割以上に達しており、8割・9割以上の回答も増えてきている。また、生徒の回答についても肯定的回答がほとんどである。しかしながら、保護者に比べると満足度は決して高いとは言えない。生徒からの意見を精査し、更なる向上に努めなければならない。

回答率(回答数/在籍数)
生　徒　　1年:99%(302/306)　2年:100%(327/327)　3年:100%(303/303)　合計:99%(932/936)
保護者　　1年:98%(301/306)　2年:89%(292/327)　3年:95%(288/303)　合計:94%(881/936)

※学校関係者評価委員会からの意見

【 令和3年7月30日（金）】

・特別支援と関連して障がい者対応をどこまでやっているのか。入学に際して特別支援の障がい者枠があるのか。
→　入学の際に、特別支援の障がい者枠はなく、現在のところ身体的な障がい者の入学はない。本校において、特別支援は起立性調節障害や適応障害等の理由により登校することが難しい生徒に対して入学後に適用している。特別支援の適用になった生徒は、欠席日数等の規定が通常よりも緩和され、卒業に向けて学校からのサポートを受けている。
・各学年の欠席・遅刻について、2学年が1学年と比較して多いのは、昨年度の緊急事態宣言が影響しているのか。
→　生徒は通常4月・5月で学校生活のリズムに慣れていくはずが、昨年度の緊急事態宣言により、オリエンテーションが実施できず授業はオンラインになってしまった。学校生活をスムーズに送るための指導をする時間が生徒に十分に与えられなかったことにより2学年の遅刻欠席が増えているのではないかと考えている。
・遅刻者に厳しい指導を行うことにより遅刻者が学校に来なくなることを危惧している学校もあるようだが、大阪偕星学園では遅刻者にはどのような対応をしているのか。
→　遅刻の回数に応じて、遅刻者は「生徒心得」を書くことになっている。この指導により遅刻が抑えられている面がある一方で、遅刻を続ける特定の生徒もいないわけではない。ただ、遅刻するなら登校はしないという生徒はあまりいない。
・懲戒処分者数の目標は50名になっているが、現状はどのようなものか。また、懲戒処分は校則に基づいて決められているのか。
→　現在は懲戒処分者数は増加していない。懲戒処分は校則に基づいて行われている。また、自主退学は懲戒処分者に数えておらず、校則に基づいて実施された懲戒処分のみが懲戒処分者数として数えられている。問題のある行動をおこした生徒は、特別指導として対応している。それでも、学校に在籍することが難しい生徒は、自主的な転学か退学に至る場合がある。
・近年は多種多様な生徒が入学し、それぞれが抱える問題も多様化している。そうした状況の中で、大阪偕星学園では生徒への支援を教員が専門的に学ぶ研修を総務部が実施しているが、これは全教職員が参加しているのか。また、研修の内容はどのようなものか。
→　研修に参加しているのは総務部の担当者。研修内容として、かつては学習障害や発達障害が多かったが、近年はLGBTに関連するものが多くなっている。
・公立高校ではGIGAスクール構想があり、生徒が一人一台PCやタブレット端末を利用できる環境が目指されている。大阪偕星学園では、現在生徒はPCやタブレット端末をどの程度利用できているのか。
→　生徒にタブレット端末等を配布して学校で活用することはまだ行っていない。しかし、校内はWi-Fiが利用できるようになっている。ほとんどの生徒が自身のスマートフォンやタブレット端末を持参して、Wi-Fiに接続し学習に役立てている。また、インターネットの利用に関して、これまでのところ大きなトラブルは起きていない。

【 令和3年11月26日（金）】

・9月末に緊急事態宣言が解除され、学校行事も目白押しだったように思います。生野区内の小中学校の校長と面談する機会があり、不登校が増えていると聞いています。コロナの状況もあって生活習慣の乱れ等もあるが、ご家庭のほうでも「コロナのこともあるので、今日は休んでおこう」ということもあるようです。
・各種、様々な講習会に取り組んでいらっしゃると感じています。
・大阪市のほうでは一人一台のPCを利用していますが、大阪偕星学園のほうでも授業で「PCを活用することによって集中力が上がっている」とあるように良いことだと思います。
・ICT活用事例として、ある小学校では「読解力」をあげるために、小学6年生を対象にデジタルスクラップに取り組まれている。このことにより新聞に対して興味を持つ児童が増えたようです。
・「校則違反がなぜ多いのか」ということを検討していく必要があると思います。
・校則についても常に検討していくことが大切だと思います。
・最近ではネット関係で外部からの通報が増えている。
・小学生に「帽子をかぶりなさい」と言ってもかぶらない児童がいたが、「なぜ、かぶるのか」を教えていくようにすることによって改善されていった。
・小さい約束をきちんと守るということを教えていく。このことが学校の規範意識を高めることに繋がっていくのではないでしょうか。
・子どもがキレやすくなっていると耳にしたことがある。先生方の指導の仕方が難しくなっていると思います。
・生徒が安心、安全に生活できるように、どんな些細なシグナルでも見逃さないような姿勢で取り組まれていると感じました。
・中学生の人数が減少傾向にある中で、イブニング説明会の開催など、非常に熱心に取り組まれていると思いました。
・今の子供たちは情報が入りすぎるところがあるので先生方も扱いが難しいと思います。
・学校のホームページを新しくされたと聞き、私も良く見ているので更新されるのを楽しみにしています。

【 令和4年3月11日（金）】
・このコロナ禍でも「生徒の学びを止めない」ということで学校が本当にご尽力されていたことがよく分かります。
・「学校が楽しい」という項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」の数値が高い割合で出ている。学校が生徒のために常日頃から努力されていると感じました。
・PCを使っての授業については、「使い方の質」や「使い方の機会」を工夫していくことも大切になってくると思います。
・「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の項目の「よくあてはまる」「ややあてはまる」の数値が低いと感じました。
・今年度から「IKUNO未来教育ネットワーク」を立ち上げ、企業に参加していただき、生野区内の小中学校のキャリア教育や体験学習を推進させていっています。その中でも、ある中学校のほうでは生徒たちが商品開発をするまで進んでいるようです。
・遅刻常習者がいることや懲戒処分者数が多い原因を考えていくことが必要だと思います。
・相談しにくる生徒は減ってきていると思うので、「相談することはないか」と学校側から積極的に発信していってはどうか。
・「不易流行」という言葉があるが、時代とともに「なぜ」に重点を置いて進んでいきたいと思っています。

3　本年度の取組内容及び自己評価

	本年度の重点目標	具体的な取り組み内容	評価指標	取組内容の自己評価
取り組み①	学力の充実と進路希望の実現	①生徒達の理解度や進捗状況を丁寧に確認し、「わかりやすい授業」をする。また、定期考査は勿論であるが、模試の結果も教科としてしっかりと把握し、生徒たちの学力向上に努める。	①学校教育自己診断による、「授業はわかりやすい」の項目での肯定的回答70％以上	①担当者同士の連絡を密にしていくことや、定期考査の結果については教科として把握できているが、模試の数値を把握するまでにはいたっていない。学校教育自己診断による、「授業はわかりやすい」の項目での肯定的回答は67％だった。1年生が74％、2年生が65％、3年生が63％であった。昨年度に比べ、全体の数値としては上がっている。PCを利用しての授業が増加していくことで、過去3年間での1年生の肯定的回答が一番高かった。よって、次年度からはPCでの授業展開を増やしていくことが良い結果につながるのではないかと考える。
		②生徒の進路実現のため、個々に応じた対策講座やガイダンスを実施していく。また、習熟度別の放課後講習、夏期講習を実施し、柔軟に対応していく。	②進路決定率95％以上。	②進路決定率は93.7%であった。進学実績としては、産近甲龍52名、摂神追桃97名と例年と比較すると、まずまずの実績を収めることができた。しかし、関関同立の正規合格が前期時点で獲得できなかったことが、次年度に向けての大きな課題となった。専門学校、就職については例年と比べて遜色のない結果であった。文理進学コースの生徒もよく健闘したと言える。次年度については、講習の在り方や組み方などを高1からの3年スパンでもう一度再考する必要がある。関関同立、国公立進学希望者への質の高いフォローアップ体制を構築する。
取り組み②	生徒指導の充実	①頭髪違反率を低くすることを、各クラスが意識していくようにする。	①毎月の頭髪違反率3％未満	①違反率1.19％
		②8時30分に自教室で着席しておくことを、習慣化していく。	②毎月のSHR遅刻率0.5％未満	②SHR遅刻率0.60％
		③毎日の学校生活の中で、生徒の規範意識が高まるよう、全教員が細かな点まで確認していく。	③懲戒処分者数50名以下(延べ人数)	③懲戒処分者数51名（延べ人数）
		④交通ルールやマナー、モラルに対する意識づけを日頃からしていく。	④外部からの苦情35件以下	④外部からの苦情24件（昨年度43件）
		全教員によるきめ細かい積極的生活指導・マナー（モラル）指導を推進し、生徒の規範意識を向上させ、問題行動の未然防止に努める。特に、「時間を守る」「ものを大切にする」「他者を尊重する」 に重点的に取り組む。		懲戒処分者数が昨年度より7名減少、外部からの苦情についても昨年度は43件であったのに対して今年度は24件と減少はしている。通学途中、「広がって歩いている」との苦情が多く、次年度についても交通ルールや電車内のマナーについて具体的に指導していかなければならない。また、日頃から担任、学年を中心に様々な角度から規範意識を高めるようにしていくことが必要である。
取り組み③	学校組織運営の活性化	①各種奨学金募集に関する情報発信をおこない、生徒及び保護者の奨学金に関する認知度を高めるとともに、教職員の奨学金に関する知識を深める。	①学校教育自己診断による「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる」の項目での肯定的回答70％以上	①学校教育自己診断による「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる」の項目において、肯定的回答が78％であった。本校に案内のあったすべての案内をメール配信し、ホームページに掲載。担任が窓口となることにより、生徒の利用状況等を把握することができている。次年度からは、日本学生支援機構奨学金についての案内を、2年生の3学期に実施する予定。
		令和2年度、受験者数が大きく減少した大阪府南部地域やその他減少エリアへの広報活動を強化していく。また、人口増加エリアも受験生獲得のチャンスと捉え広報活動を強化していく。これまでの来校型の入試イベントだけでなく、こちらから各地で開催する形式の説明会も実施していくなど認知度を上げ、専願受験者だけでなく公立高校を検討している併願受験者への認知度も上げていく。	②専願受験者で300名以上を確保する	②受験者数については、専願受験者数218名（前年比78.7％）、併願受験者数311名（前年比73.7％）、全体で529名（75.7％）と大きく減少した。10月上旬までの業者模試志望調査数や第1回オープンスクール来場者数は、前年を上回っていただけに残念であるが、入試イベント参加者中の受験者数（受験率）は、オープンスクール全体で前年比5.5％アップ、入試説明会全体で前年比6.6％アップとなり、入試イベントに参加した生徒が受験に繋がる率は向上した。また、専願受験者は前年から59名減少したが、内訳は特進コース（－2）、文理進学コース（±0）、進路探究コース（－20）、スポーツコース（－37）となり、進路探究とスポーツコースの減少が大きかった。次年度に向けて、学力伸長や進学実績など本校の長所となる部分は、引き続きPRしていくと同時

				に各種入試イベントの内容含めて、更に参加者数、受験率が向上するよう新たな策を考えていくことが必要。とにかく信頼回復に向け、取り組み内容などアピールし、イメージを変えていくことが大切。
		③受験生が学校のことを知るきっかけとなるホームページを刷新し、より多くの中学生・保護者からも受験したいと感じるようなものへとしていく。 その他広報物作成においても意味・効果のあるものへと変えていき、作業効率の向上を図る。	③ホームページアクセス数の向上	③刷新したホームページについては、閲覧して欲しいページの閲覧回数が時期に応じて上位にきており、「見易さ」は以前よりよくなったと思われる。TOPページにバナーを貼ることにより、そのページの閲覧数も向上している。次年度については、閲覧数の少なかったページ内容や時期に応じたバナー作成をするなどし、閲覧数を上げていく。また、校名検索やQRコードからのホームページ検索が上位である反面、他サイトやSNSからのホームページ閲覧数がまだまだ低く、多方面から本校ホームページにアクセスする手法（WEB広告、SNS等）を活用し、認知度を上げていくことが大切である。